

マニアックなオーナー マニアックな時計



店内はかなり狭い。しかも展示されている時計の数が半端ではないので、一種独特の雰囲気になっている。クリスマスでもない普通の月なのになぜ特別な時計を置いているのかと、驚く客が多いという。ここは、わくわくするようなおもちゃ屋といった感じだ。



PICCIOTTO氏にとって重要なのは時計のオリジナリティだ。リバーソや凝ったメカが魅力のジャガー・ルクルトはお気に入りのブランドのひとつ。このブランドだけで、在庫は100本近い。



自身がハイレファンであるPICCIOTTO氏の選択は驚しい。ダイヤ付きやクロノグラフは本来のハイレの姿ではなく、あくまでも軍用機として考えるべきだと。ハネライのスピリットに合致するのは、ルミノール マリーナ オートマティック 44mmのようなクラシックなタイプだという。マニアにありがちな「凝ったメカがよい」という価値観ではないのである。クロノパッションの商品構成が通好みになるのも納得できる。



ラング・アンド・ゾーネの在庫は約30本。この数はかなり多いといえる。PICCIOTTO氏か能兼するのにはプラチナのラング1。入荷と同時に売れてしまうそうだ。右ページで紹介したドゥパレル (ダイヤ入りのラング1) では、フランス人にはラング・アンド・ゾーネは人気がないといったが、本当の時計好きはこのブランドを選ぶらしい。



社長
LAURENT PICCIOTTOさん



271, RUE SAINT-HONORÉ

75001 PARIS
Tel 01 42 60 60 72

場所はサントノレ通り。"とらや"の近くにある。隣はオーデマ・ピゲのオンリーショップなのだが、中はクロノパッションとつながっている。どちらもクロノパッションの経営だ。いろいろな時計メーカーから取り扱いを依頼されるそうで、その中で、オーデマ・ピゲブランドだけをオンリーショップとして1996年にオープンさせている。取り扱いブランドは、ブレグ、IWC、ジェラルド・ジュエック、ジャール・ペルゴ、ハネライ、ジャガー・ルクルト、ユリス・ナルダン、バセロン コンスタンチンなど。創業は1988年。

自分の時計はそれほど持っていないという。理由はいろいろありますが、まず、高価であること。そして、たとえばフェラーリのディーラーが街道フェラーリを(仕入れ価格で)買っていたら、会社はすぐにつぶれてしまうでしょう。また、3年前にプライベートコレクションを50本ほど盗まれてしまいましたね」とはいうものの、現在でも45本は所有しているそうだ。当日の時計はオーデマ・ピゲのトゥールビヨン (プラチナ)。次に購入するのはRICHARD MILLE。"私のお客さんで1500本時計を持っている人います。彼は1日に7回時計を替えるそうです。斬新にはこれ、シャワーのとき(?)はこれ、ランチにはこれってね。そうしないとも全部使い切れませんからね"



センスがよい時計店とはいえ、まさかここでRICHARD MILLEを見られるとは思わなかった。PICCIOTTO氏が資本参加しているのでここにあるのだが、彼はメカニズムに関してアイデアを出し、パテントを取っているという。実はRICHARD MILLE氏自身 (フランス人元モータースパース社長) も時計職人ではない。そんなふたりがこんなに魅力的な時計を作ってしまうのだから驚く。ケースデザインもムーブメントも独創的だ。なにしろ、落としても壊れないのだから……。このハヴァーリザードとトルクインジケメント付きトゥールビヨンは邦貨にして約200万円。普通の形状 (マイクスイッチ) と異なるビス (スクリュー) を使用しているのは、専用ツールを使わないで取り換えられないようにするため。他社の職人には触らせたくないのだという (このブランドが永く続くことを願う)。今年はRICHARD MILLEから第2タイムゾーン付きトゥールビヨン、そしてスペシャルクロノグラフが発売される予定だ。

CHRONOPASSION

何年か前、PICCIOTTO氏が尊敬するランドミク・ペラン氏 (カルティエ社長) が店の前にやって来て、ショールームを長い時間眺めていたことがあった。彼の考えていることがPICCIOTTO氏にはわかる。トゥールビヨンがあつて、永久カレンダーが3種もあつて、一体なんという店なんだろう……。PICCIOTTO氏はその出来事を誇りに思い、ペラン氏に手紙を書いたそうだが、後日「カルティエの時計は置いていないのだね」と電話がかかってきて、大変困ったという。

カルティエを扱わないのには理由がある。PICCIOTTO氏にとって、カルティエは彼の価値観の対極に位置する時計なのだ。カルティエの豪華さに対し、PICCIOTTO氏はムーブメントの豪華さを追求しているからだ。一時期クロノパッション仕様のカルティエ特別バージョンを扱ったが、いま、カルティエは店にない。

「この10年で時計業界は大きく変わってしまった。あるブランドは全く本来の姿を失い、また、あるブランドはうちも複雑時計をやろうと始めます。フランク・ミュラーも最初の頃は素晴らしい複雑時計のマスター職人でした。でも、いまの彼は私にとってはもう時計職人ではなく、ショービジネスのマスターなのです。昔は私も扱っていたのですが……」

厳しい意見だが、こういう考えもあるということだ。こんな頑固な考えの時計店が成り立つ環境がうらやましい。何年後かのクロノパッションの留置構成を見たかもしれない。